

☆ 書評 ☆

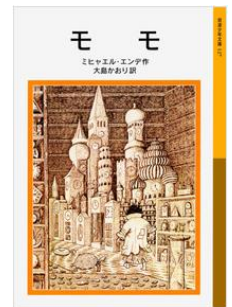
今年度、チャレンジコースの国語の授業で須澤さんと本田さんが書評を書く学習にとり組み、それぞれ力作を仕上げましたので紹介します。

* 図書の本を借りた人には、特製(田中先生手作りの「しおり」)を、また5冊以上借りた人には「名前入りしおり」をプレゼントします。



☆ モモ ミハヤエル・エンデ作

舞台は町外にある円形劇場。そこにはモモという女の子が住んでいる。モモは話を聞くことが上手で、町の人たちはモモと幸せな時間を過ごしていた。



そんな時、時間貯蓄銀行から来た男たちが町の人に時間を節約すれば高い利子が付くとだまそうとする。人々は時間節約に励み、お金を稼ぐようになるが、不機嫌でおこりっぽくなり、町は無機質になっていく。モモは男たちにだまされている人々を救うために立ち向かい、時間とは何か、生きるとは何かを考えていく。

この本を通じて、作者は、忙しさの中で生きることの意味を忘れていないか? という疑問を投げかけている。現在社会に生きる我々にとって大事なことが書かれているし、子供はもちろん大人も読んでもらいたい本だと感じた。(3年 須澤瑞希)

☆ 怖い話 中野京子作

ドレスを着た女が描かれた一見ありふれた絵画が表紙のこの本。読み進めていくと絵に関する恐ろしい事実が浮かび上がる。表紙の女は若者をギャンブルで騙そうとしている詐欺師で、仲間とアイコンタクトを取っている場面であった。この事実を知るだけで、絵画の先とは違った一面を見ることが出来る。

この本では「エトワール」やゴッホの「自画像」といった著名な画家が描いた作品を、中野京子氏の解説を読むことで、一見しただけではわからない思いを取らない怖さが目のあたりになる。

絵の背景のある歴史を理解していくと浮き彫りにある暗部。絵画の新しい楽しみ方を提案したこの本をシリーズ第1作目で、美術の知識がなくとも十分に楽しめる一冊だ。全22作目の魅力を心ゆくまで堪能してもらいたい。 (3年 須澤瑞希)

☆ブルーピリオド 漫画

私がおすすめしたい本は、ブルーピリオドという漫画です。ブルーピリオドは山口つばささんによる日本の漫画です。「月刊アフタヌーン」にて、2017年6月24日発売の8月号から連載中。2022年3月25日から4月3日天王州銀河劇場にて舞台化されました。出版社は講談社ジャンル、成長物語、ドラマ。

この漫画は、今まで本気で何かを好きになったことがなかった少年、矢口が初めて美術にのめり込み、ライバルたちと競い合いながら成長していく物語です。漫画を読んでいくと、少年少女の成長や苦勞が垣間見られてとても面白い作品だと思いました。

けれども、どの作品にも「つまらない」「面白くない」という人がいます。この作品の場合、大きく場面が変わる、高校編～大学編に変わるタイミングで、「つまらない」「面白くない」などと思う人が多いみたいです。その他には、「絵の基礎部分が長い」といった声もあるそうです。

けれども、絵を知らない人からしたら、絵の基礎部分は勉強になる部分でもあると思います。SNSでも「勉強になる」「面白い」といったコメントが圧倒的に多いそうです。

これから少し絵を描いてみたいなと思っいて、でも描き方がいまいちわからない人がもしいましたら、この漫画を読んで1歩踏み出してみてください。漫画を読むのが苦手だったりする人は、アニメにも配信されているので、ぜひ見てください。 (本田舞姫)